



修学旅行を終えて

修学旅行(4/24~26)を無事に終えることができました。2日目は、あいにくの雨天時での長崎市内・ハウステンボス班別行動となりましたが、体調を崩してリタイアする生徒もなく、3日間にわたり生徒が見せてくれた笑顔が印象に残っています。コロナ禍中で野外活動を実施できなかった3年生にとっては、中学校での最高の思い出のひとつになったのでは、と3年職員一同が胸をなでおろしています。保護者の皆さまにおかれましても、生徒からの土産話を聞かれて喜んでいただけたのではないのでしょうか。

修学旅行の事前指導で、「今やらなければならないこと」「今やっちはいけないこと」「今やる必要のないこと」を意識して行動するように、と生徒に呼びかけました。原爆資料館での平和講演会では、真剣な態度で清野定廣さんの話に耳を傾けていました。また、平和公園内の爆心地で行われたセレモニーでは、代表の2名が山陽中平和宣言を読み上げ、戦争のない平和な社会を目指して、自分たちにできることを考え、実行していく決意を表明しました(以下に掲載しています)。このように真剣な態度で行動できるときもあれば、事前に伝えた「3つの今」を忘れ、周りに迷惑をかけてしまうときもありました。引き続き「3つの今」を意識する必要があります。

また、中学生を引率して修学旅行に行くたびに、「一生に一度の修学旅行で少しでもよい思い出をつくって帰ってもらいたい」という生徒への心遣いを、修学旅行生のためにサービスを提供する大人の姿から感じてきました。その思いに報いるように感謝の気持ちを示してほしい、と事前指導で話しました。実際の場面でしっかりと相手の目を見て、あいさつや感謝の気持ちを伝えるのは難しいことですが、日を追うごとに目を見合わせて自分の思いを表現する生徒が増えてきました。嬉しかったです。

NHKが以前、各界の指導者的立場にある350人に対し、「美しい日本語」についてのアンケートをとったことがあります。その結果、852の言葉の中から以下の言葉が、美しい日本語ベスト10に選定されました。

1位「ありがとう」 2位「さようなら」 3位「はい」 4位「すみません」 5位「おはようございます」

6位「さわやか」 7位「いらっしゃいませ」 8位「おやすみなさい」 9位「どうぞ」 10位「いいえ」

選ばれた「美しい日本語」の多くが、あいさつに関する言葉です。いずれの言葉も気持ちを込めて正しく使うことが普段からできていれば、良好な人間関係をきずくことができます。朝、登校したときに「おはようございます」。助けていただいたときに「有難うございます」。失敗したときに「すみません」など、あいさつや自分の意思を示すことがコミュニケーションの始まりです。これらの言葉は、他者と協働していくうえで、欠かすことのできない大切な言葉です。

本校は「日常五心」を実践する生徒を「めざす生徒像」に掲げています。普段の学校生活を通して躊躇せずにあいさつや返事ができるように習慣づけたいものです。

1年生は自然教室で、2年生は「トライやる・ウィーク」で「日常五心」を実践しながら頑張ってくれると期待しています。



1日目【平和祈念セレモニー：爆心地】



2日目【ホテル日航ハウステンボス前】



3日目【太宰府天満宮】

山陽中学校平和宣言

私たちは長崎に来て、たくさんの戦争や原子爆弾に関する展示物を見ました。そのどれもが私たちに戦争の悲しさや恐ろしさを、平和の大切さを強く訴えてきました。私たちは戦争を体験していません。これからも体験しないまま生きていきたいと願います。

そして、私たちの国、日本、

この国で起こってしまったことを、その残酷さを風化させてはいけません。先輩たちが渡してくれた「平和のバトン」をしっかりと受け継ぎ、さらに次の世代へこの「平和のバトン」を渡していかなければなりません。

そのためには戦争の正しい事実を学び、それに対する自分自身の意見をしっかりと持ち、示すことが大事です。たとえ、一人ひとりの持つ力は小さくても、学年で、学校で、地域で協力の輪を広げていけば、とても大きな力になります。

私たち山陽中学校は周りの人と協力し合い、小さなことから平和へと一歩ずつ近づくよう、自分たちができることから、考え、行動していくことを誓います。

令和5年4月24日 大島 拓 山室 香歩